

(6) 次世代育成支援文化醸成のための取組

1) 家族の日の実施

職員の家族を本学へ招待する家族の日を実施した。目的は、以下のとおり。

- ・職員に対しては、家族を持つ職員への理解を深め、互いのワーク・ライフ・バランスを尊重する職場風土を醸成すること。
- ・家族に対しては、働く姿や職場環境、業務内容を知ってもらうこと。またそれにより、職場や仕事への理解を促進するとともに、働く人と接し実際の知識や議場・技術に触れることで、次世代における職業観、勤労観を育むこと。

【平成23年度プログラム】

1. 集合・オリエンテーション
2. 学長との交流会（名刺交換会、インタビュー、記念撮影 etc.）
3. 職業体験セミナー
4. 親子でランチミーティング
5. パパ・ママの職場訪問
6. パパ・ママと一緒にうちへ帰ろう

平成23年度チラシ

平成23年度 岡山大学
家族の日
2011.8.10

H23年8月10日(水)
午前9:00~

職員の家来などなたでも参加できます!
申込〆切:7月15日(金)

パパ・ママの **をみにいこう!**
多岐大
シゴトバ

① 9:00~集合・オリエンテーション
旧事務総庁舎2階ミーティング室に集合!
・みんなの自己紹介
・名刺交換やってみよう!
・パパ・ママの職場ま
さくして、い
どなたもどうぞ? etc

② 9:30~学長との交流会
本部棟5階学長室
・名刺交換会
・インタビュー
・みんなで
記念撮影 etc

③ 10:30~職業体験セミナー
医療人キャリアセンターMUSCAT
医療のお仕事を体験してみよう!
・包帯巻きに親子でトライ!
・医療シミュレーターで胆のう切除はライ
・医療シミュレーターで人体を解剖しよう
※年齢・参加人数により内容は変更になることが
あります。 連絡先: 総務-企画部人事課
石崎・高橋
(TEL:086-251-7303・7025)
E-Mail: diversity@adm.okayama-u.ac.jp

④ 11:30~親子でランチミーティング
Cafeteria / パンビ

⑤ 13:00~パパ・ママの職場訪問
各職場にて実施(津島地区へはバスで移動)

⑥ 各自解散・パパ・ママと一緒にうちへ帰ろう!

大田区へ

【平成23年度アンケート集計結果】

回答者数：18人中14人，回収率：77.8%

(1) 家族の日に参加した全体的な感想

とても満足している	満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である
71%	29%	0%	0%	0%

(2) 家族の日に参加することにより，職場・仕事への家族の理解は深まったと思うか

とても思う	思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
43%	57%	0%	0%	0%

(3) 参加されたお子さんの様子

とても楽しんでいた	楽しんでいた	どちらともいえない	あまり楽しんでいなかった	楽しんでいなかった
36%	64%	0%	0%	0%

(4) 学長との交流会について

とても満足している	満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である
57%	43%	0%	0%	0%

(5) 職業体験セミナーについて

とても満足している	満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である
64%	29%	0%	0%	0%

(6) パパ・ママの職場訪問を行ったか

訪問した	訪問していない
71%	29%

(7) パパ・ママの職場訪問の感想（訪問した方のみ）

とても満足している	満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である
60%	40%	0%	0%	0%



▲学長との名刺交換



▲職業体験セミナー

2) 育 Men's Club の開催

男性のワーク・ライフ・バランス向上を目指し、男性教職員に支援制度を知ってもらうことで利用を促進するとともに、仕事と子育ての両立について情報交換する場を提供するため、男性教職員を対象とした「育 Men's Club」の第1回を平成23年度に実施した。

【第1回実施内容】

○参加者 13名

内訳



○プログラム

1. パパもつかえる育児支援制度

- ・岡大男性職員が取得できる支援制度はコレ！
- ・”Men's 育児休業” 取得の極意 ～まずは気軽に数日から～

2. 仕事と子育ての両立フリートーク

- ～気軽に語り合おう！分かち合おう！～



○要望等

- ・制度も必要だが、まずは、人手（部局ごとにフレキシブルに利用できる雑務をしてくれる人材等）が欲しい
- ・研究を支援してくれる人材が欲しい
- ・出産後でなければ、育児休業はとれないが、すでに兄弟がいる場合は、産前にも休む必要がでてくる
- ・妻が専業主婦の場合でも利用できる制度が欲しい
- ・子育て世代に優先的に授業の時間帯を選べるようにして欲しい
- ・育児期の支援として、教員活動評価の最低コマ数の緩和が欲しい
- ・育児の時期に教員評価でマイナスにならないような配慮が欲しい
- ・自宅でも仕事ができる環境・制度（テレワーク）があればよい
- ・一時保育があると大変助かる

Ⅳ-i-8. 【その他】

(1) 他機関との協働

1) 中国四国地区大学との協働

① 10 国立大学長による男女共同参画推進のための共同宣言

男女共同参画推進の取組においては、近隣地区の大学との連携を進めている地区が九州、北東北、筑波等いくつかあり、シンポジウムの他にも、実務者による勉強会や情報交換会等を開催して業務に生かしている。中国・四国地区では平成21年度末に広島大学が第1回を開催した中国四国男女共同参画シンポジウムが継続して実施されているが、それ以外には特に何も行われていない。平成23年度に本学が中国四国男女共同参画シンポジウムの主催大学となるにあたり、地区内大学により何らかの協働を行うことを通して連携に向けて動き出すことを目指すこととした。そのために、中国・四国地区の国立大学学長による共同宣言を行い、今後の取組の中心的柱とすることとした。

8月初め、沖陽子男女共同参画室長から中国・四国地区各大学の男女共同参画担当部署の長にあてて地区内の国立大学による男女共同参画推進を目指した共同宣言を行うことについて意見・提案を求めた。担当する組織が設置されていない大学においては、人事課の担当部署に問い合わせを依頼した。

その後、複数の大学から共同宣言について検討するための土台となる素案が欲しいとの要望があったため、男女共同参画室で素案を作成し、8月下旬に各大学に送付した。同時に、共同宣言は9月27日に開催される中四国国立大学学長会議で協議事項とするため、意見・提案の提出にあたっては、大学として意見をまとめるように事務組織を通して依頼した。

締め切り日である9月16日までは、各大学から素案に対する代案、あるいは素案中の文言に対するコメントあるいは質問という形で寄せられた。これを受けて、男女共同参画室では共同宣言を再検討し、人事課の協力を得て共同宣言の趣旨および宣言項目の観点からなる「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言（概要）」を作成して、「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言について」を中四国国立大学学長会議に協議事項として提案した。

9月27日に開催された中四国国立大学学長会議において「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言について」が承認された。その後、趣旨に沿う形で最終的な共同宣言文を作成し、10月中旬、人事課を通して各大学に共同宣言が提案された。10月28日までに各大学から意見を求めたところ、4大学から意見が出された。これを反映させて10月31日に最終案を作成し、11月1日～2日に開催された女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム等の機会を利用して各大学の男女共同参画担当部署の長に確認した。

11月11日、第3回中国四国男女共同参画シンポジウム「女性研究者が活躍する大学～支援ネットワークの強化を目指して～」において、森田潔学長がビデオメッセージという形で「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」（次ページ参照）において披露した。「中

国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」は、地区内大学のホームページ等で周知が図られている。

この間、9月8-9日に開催された中国・四国地区総務部課長会議においては、「男女共同参画の推進について」が本学からの提案により承合事項とされた。各大学からは、特に科学技術基本計画にも数値目標が掲げられている自然科学系の女性教員の比率の増加に向けた取組状況について報告があった。

中国・四国地区国立大学 男女共同参画推進のための共同宣言

中国・四国地区国立大学 男女共同参画推進のための共同宣言

男女共同参画社会、すなわち全ての個人が持つ資質・能力を發揮できる社会の実現は、我が国の発展にとって重要かつ喫緊の課題です。中国・四国地区の10国立大学は、高等教育・研究機関として、地域発展の重要な先導を担い、学術研究の一層の進展及び有為な人材育成に貢献する責務を負っています。

これまで私たちは、男女共同参画社会の実現を目指して女性研究者支援や男女共同参画に関する意識啓発等、活発な取組を推進してきました。今後とも特徴ある取組を継続し、一層発展させていくとともに、次の5項目を実行していくことを宣言します。

- 一 大学構成員の女性比率の向上に努め、かつ意思決定過程への女性の参画機会を拡大すること
- 一 大学構成員が持てる資質・能力を最大限發揮できる教育・研究及び就労環境を整備・充実すること
- 一 男女共同参画の視点に立った人材育成を推進すること
- 一 男女共同参画社会実現への取組において、シンポジウム等を継続開催し、地域との協力・協働を進めること
- 一 男女共同参画社会実現に向けて、地区内での大学間の相互交流と連携を一層深化させること

平成23年11月11日

鳥取大学長	能 勢 隆 之
島根大学長	山 本 廣 基
岡山大学長	森 田 潔
広島大学長	浅 原 利 正
山口大学長	丸 本 卓 哉
徳島大学長	香 川 征
鳴門教育大学長	田 中 雄 三
香川大学長	長 尾 省 吾
愛媛大学長	柳 澤 康 信
高知大学長	相 良 祐 輔

IV-i-8 (1) 他機関との協働

1) 中国四国地区大学との協働

②男女共同参画推進のための連携会議の開催

中国・四国地区の大学との連携を進めるに当たっては、これまでのように中国四国男女共同参画シンポジウムを開催するだけでなく、会議という形で意見交換を進めることが有効であるとの認識から、男女共同参画推進を目的とした連携会議の設置が検討された。男女共同参画室では、連携会議のレベルや参加者、開催頻度等について検討し、まず第1回の会議については地区内の国立大学を対象を絞った上で、希望する関係者であれば誰でも参加できることとし、中国四国地区男女共同参画シンポジウムの開催に合わせて実施することとした。

10月25日付けで沖陽子男女共同参画室長から中国・四国地区国立10大学の男女共同参画担当部署の長宛に男女共同参画推進に携わっている者の検討会議への出席が依頼された。

検討会議は、シンポジウム当日、11時より岡山コンベンションセンター401号室にて開催された。当日は、別表の通り22名の参加があり、以下の事項について検討を行った。

1. 中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言について
2. 第4回中国四国男女共同参画シンポジウムの開催（当番校・実施時期）について
3. 今後の中国・四国地区における連携のあり方について

検討会議では、今後もシンポジウムの開催に併せて年1回開催すること、会議は今後、国立大学以外の大学についても参加を勧めることなどが決定された。なお、会議をどのような形で実施するかということについて今後検討していくことになった。また、今後の連携をスムーズに進めるため、会議参加大学による連絡のための名簿を作成することとなった。

「中国・四国地区男女共同参画連携会議(仮称)」参加者一覧

番号	氏名	所属	職名
1	星川 淑子	鳥取大学 医学部(男女共同参画室員)	助教
2	吉田 雅人	鳥取大学 人事課人事総務係	係長
3	神原 本子	鳥取大学 人事課人事総務係	
4	澤 アツ子	島根大学 男女共同参画室	室長
5	多久和 徹	島根大学 人事労務課労務管理グループ	サブリーダー
6	坂田 桐子	広島大学 男女共同参画室	室長
7	半野 節子	広島大学 財務・総務室 職員福利グループ	主査
8	都築 徳浩	山口大学 総務部人事課	副課長
9	本仲 純子	徳島大学 AWA サポートセンター	センター長
10	中島 佳子	徳島大学 AWA サポートセンター	コーディネーター
11	宮川 純子	徳島大学 人事課男女共同参画室	専門職員
12	長安 めぐみ	香川大学	副室長
13	小島 秀子	愛媛大学 女性未来育成センター	センター長
14	武智 和康	愛媛大学 人事課	副課長
15	田所 佐史	高知大学 総務部人事課	課長補佐
16	沖 陽子	岡山大学 男女共同参画室	室長
17	富岡 憲治	岡山大学 男女共同参画室	副室長
18	本水 昌二	岡山大学 男女共同参画室	特任教授
19	保坂 雅子	岡山大学 男女共同参画室	特任助教
20	門脇 孝弘	岡山大学 男女共同参画室	特任助教
21	前川 幸枝	岡山大学 総務・企画部人事課	課長
22	早川 みどり	岡山大学 総務・企画部人事課	総括主査

IV-i-8 (1) 他機関との協働

2) 医療人キャリアセンターMUSCAT との協働

～岡山県女性医師キャリアセンター運営事業「MUSCATプロジェクト」を通して（平成23年度）～

医療人キャリアセンターMUSCATでは、片岡仁美医師（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授・ダイバーシティ推進本部男女共同参画室員）の下、前進となる「女性を生かすキャリア支援計画」〔質の高い医療人養成推進プログラム（医療人 GP）〕をさらに発展させ、平成22年度からは、岡山県の委託事業（岡山県女性医師キャリアセンター事業）として、「MUSCAT プロジェクト」を進めている。本プロジェクトでは、学内はもとより広く岡山県下の医療人に対象を拡大させ、女性医療人の支援と男女共同参画の実現を目指し、日々活動に邁進している。

男女共同参画室では、平成23年10月21日に、平成23年度第2回交流サロン『医療従事者として生きるということ』を医療人キャリアセンターMUSCATと共催した。交流サロンは、本事業の主な活動として平成21年度より継続して開催しているものである。また、平成23年11月26日には、医療人キャリアセンターMUSCATの活動の一環である第2回岡山MUSCATフォーラム『いまを生きるー求められる医療人の力』を共催した。今後も、医療人キャリアセンターMUSCATと連携をとりながら、学内のみならず地域の男女共同参画の推進に貢献できるよう活動を進めていきたい。

岡山大学医学部医学科人財育成推進委員会「女性研究者研究活動支援事業（女性医師キャリアセンター事業）」
学務・キャリアセンター女性医師キャリアセンター

平成23年度 第2回
交流サロン
医療従事者として
生きるということ

日時 2011年10月21日(金)
18:30～19:30

概要
医療系学部の学生である「あなた」。
未来の医療従事者として「これからなりたいこと」はなんですか？
医療従事者として働いている「あなた」。
「あの時こうしておけばよかった」、「後輩に伝えておきたい」ということはありませんか？

平成23年度第2回の交流サロンは、医療従事者が知っておきたいことについて
近い将来、医療従事者となる学生と教員、医療従事者、患者等
様々な立場の方とが語り合う場を提供します。

対象者：学生・教職員および一般
会場：岡山大学豊田キャンパス 医学部保健学科棟2041演習室
岡山大学豊田キャンパス 岡山県立大学豊田キャンパス
岡山大学豊田キャンパス 岡山県立大学豊田キャンパス

お申込み・お問い合わせ先
TEL&FAX: (086) 251-7011
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

当日参加可
なるべく事前参加
申し込みにご協力
ください。

主催 岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
共催 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT

平成23年度 第2回交流サロン
平成23年10月21日(金)

第2回
岡山MUSCAT
フォーラム

輝く！女性医療人キャリアサポート
いまを生きる
求められる医療人の力

2021/11/26(土) 参加費無料
岡山コンベンションセンター(マカリアフォーラム)
1階イベントホール
13:00～18:30(18:00受付終了)
岡山県岡山小北區駅前14-1

プログラム

●ごあいさつ
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美

●特別講演
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美

●パネルディスカッション
「求められる医療人を自問して」
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美

●グループディスカッション
「私らしく生きる・医療人として輝く」
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美
岡山大学 学務・キャリアセンター 学務部長 片岡 仁美

託児あり(無料)※申込11/22(日)前
お問合せ・お申込み
岡山大学 医療人キャリアセンターMUSCAT
TEL&FAX: 086-235-6963
E-Mail: muscat@med.okayama-u.ac.jp

MUSCATプロジェクト (継続)

第2回岡山MUSCATフォーラム
平成23年11月26日(土)

IV-i-8 (1) 他機関との協働

3) 地域との連携・協働

1. 岡山県との連携・協働

男女共同参画室 保坂雅子助教は、平成23年度より「岡山県男女共同参画推進センター運営委員会」の委員となり、岡山県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）の事業の実施について助言を行う等して、岡山大学と岡山県との連携に貢献している。

また、女性サポート相談室 小畑千晴相談員は、「女性の人権相談機関連絡会」に入会し、県内各相談機関の現状を把握するとともに、学内のみならず学外から寄せられる相談に対しても、県内の相談所を紹介するなど、適切に対応できるよう岡山県と連携している。

本事業開始時より、岡山県からは交流サロンへ積極的な参加を頂いた。行政機関、一般者を含めた交流の場となり活発な情報交換が行われた。また、平成21年度～平成23年度の男女共同参画シンポジウムでは、後援および広報活動の面で大きな協力を得ている。特に、第3回中国四国男女共同参画シンポジウム（平成23年11月11日開催）では、県民生活部男女共同参画青少年課 岡野千鶴課長に事例紹介していただいた。

【平成21年度】

年月日	内容
平成22年3月6日	男女共同参画推進国際シンポジウム 後援

【平成22年度】

年月日	内容
平成22年8月6日・7日	2010年オープンキャンパスにおける展示協力
平成22年12月18日	平成22年度 男女共同参画推進シンポジウム 後援

【平成23年度】

年月日	内容
平成23年4月23日	第1回「女性の人権相談機関連絡会」へ出席
平成23年5月20日	岡山県男女共同参画推進センター第1回運営委員会へ出席
平成23年7月1日	第2回「女性の人権相談機関連絡会」へ出席
平成23年9月8日	岡山県男女共同参画推進センター第2回運営委員会へ出席
平成23年11月11日	第3回中国四国男女共同参画シンポジウム 後援 男女共同参画青少年課 岡野千鶴氏による事例紹介
平成23年12月16日	DV相談担当職員専門研修会へ参加
平成24年3月8日	岡山県男女共同参画推進センター第3回運営委員会へ出席

2. 岡山市との連携・協働

男女共同参画室 保坂雅子助教は、平成22年度より「岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会」の委員となり、岡山市男女共同参画社会推進センター（さんかく岡山）の事業および施設運営に助言している。

本事業開始時より、岡山市男女共同参画社会推進センター（さんかく岡山）とは連携・協力を深め、男女共同参画室が主催する交流サロンには多くの参加をいただいた。また、平成21年度第3回交流サロンでは、さんかく岡山 企画調整監 真邊和美氏に講演をお引き受けいただいたことから、(社)大学女性協会岡山支部へと連携が広まり、平成23年1月には、岡山市、(社)大学女性協会とともに講演会を主催している。

また、平成21年度～平成23年度の男女共同参画シンポジウムでは、後援および参加の協力を得ている。

【平成21年度】

年月日	内 容
平成22年3月5日	第3回交流サロン さんかく岡山企画調整監 真邊和美氏による講演
平成22年3月6日	男女共同参画推進国際シンポジウム 後援

【平成22年度】

年月日	内 容
平成22年8月6・7日	2010年オープンキャンパスにおける展示協力
平成22年12月18日	平成22年度 男女共同参画推進シンポジウム 後援
平成23年1月23日	市民協働事業 講演会[岡山市・(社)大学女性協会・岡山大学] 「アフリカにおけるジェンダー・イシューズの現状！」
平成23年3月24日	岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会へ出席

【平成23年度】

年月日	内 容
平成23年8月5日	岡山市男女共同参画社会推進センター第1回運営委員会へ出席
平成23年11月11日	第3回中国四国男女共同参画シンポジウム 後援
平成23年12月17日	岡山市男女共同参画社会推進センター第2回運営委員会へ出席
平成24年2月23日	岡山市男女共同参画社会推進センター第3回運営委員会へ出席

3. 社団法人 被害者サポートセンターおかやま(VSCO)との協働

年 月 日	内 容
平成 23 年 6 月 10 日	平成 23 年度 地域における男女共同参画連携事業について 岡山市・(社) 被害者サポートセンターおかやまと打合せ
平成 23 年 8 月 29 日	平成 23 年度 地域における男女共同参画連携事業 「性犯罪被害の根絶を目指す地域ネットワークづくり」について打合せ
平成 23 年 10 月	平成 23 年度 地域における男女共同参画連携事業 「性犯罪被害の根絶を目指す地域ネットワークづくり」性的被害に関する調査の実施
平成 23 年 11 月 30 日	平成 23 年度 地域における男女共同参画連携事業 シンポジウム開催「性犯罪被害の根絶を目指して」(連携) 
平成 24 年 1 月 23 日	平成 23 年度 地域における男女共同参画連携事業 「性犯罪被害の根絶を目指す地域ネットワークづくり」リーフレット作成の打合せ

IV-i-8 (1) 他機関との協働

4) 学内他部局との連携

【平成23年度】

年 月 日	共催する部局名	内 容
平成23年10月14日	大学院自然科学研究科	第2回研究スキルアップ講座
平成23年10月21日	大学院保健学研究科 岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT	平成23年度第2回交流サロン
平成23年11月25日	学生支援センター学生相談室 岡山県男女共同参画推進センター	DV(Domestic Violence)防止 講演会
平成23年11月26日	岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT	第2回 岡山 MUSCAT フォーラム
平成23年12月15日	岡山大学教育開発センター FD委員会	第2回メンタリングに関するセ ミナー「大学教員にとってのメ ンタリング実践」
平成24年2月14日	学生支援センター 岡山県男女共同参画青少年課	若者のためのライフデザイン 支援事業 講演会

5) 男女共同参画に関する他機関での委員会活動

氏 名	委員会名	職名	活動期間
沖 陽子	公益社団法人 日本工学教育協会 事業企画委員会	委員	平成20年度～ 現在
中谷 文美	岡山市男女共同参画専門委員会	委員	平成18年度～ 現在
片岡 仁美	女性医師支援事業連絡協議会	委員	平成22年度～ 現在
	文部科学省 GP 看護師の人材養成シ ステムの確立 「EBN 志向の次世代看 護職教育システム開発」	内部評価委員	平成23年度
	働きやすい病院評価事業 (2年)	サーベイヤ	平成24年～

IV-i-8(2) 他機関における事業活動への参加および情報交換

①他機関における事業活動への参加および情報交換

平成22年度実施

概要	愛媛大学 愛媛大学女性未来育成センター 視察
実施日	2011年3月11日(金) 11:00~12:00
場所/主催	愛媛大学女性未来育成センター
参加者	保坂雅子(男女共同参画室員) 助教
実施内容	情報交換

概要	愛媛大学 愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム 第1回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム 「ダイバーシティ(多様性)推進で女性が活躍する社会へ」
実施日	2011年3月11日(金) 13:30~16:00
場所/主催	愛媛大学女性未来育成センター
参加者	保坂雅子(男女共同参画室員) 助教
実施内容	シンポジウム参加

概要	広島大学 広大システム改革による女性研究者活躍促進シンポジウム ～活躍する女性科学者からのメッセージ～
実施日	2011年3月17日(木) 14:00~17:00
場所/主催	ホテルグランヴィア 広島
参加者	柴倉美砂子(男女共同参画室員) 大学院保健学研究科 准教授 吉岡美保(WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 保坂雅子(男女共同参画室員) 助教
実施内容	シンポジウム参加

平成23年度実施

概要	第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 男女共同参画と社会
実施日	2011年10月31日(月) 9:30~17:00
場所/主催	筑波大学・大学会館
参加者	保坂 雅子(男女共同参画室員) 助教
実施内容	シンポジウム参加

概要	女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム 女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現 ～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」へ～
実施日	2011年11月1日(火)～2日(水)
場所/主催	筑波大学東京キャンパス文京校舎
参加者	沖 陽子 (男女共同参画室長) 環境管理センター教授・大学院環境学研究科兼務 早川みどり (男女共同参画室員) 人事課統括主査 保坂雅子 (男女共同参画室員) 助教 門脇孝弘 (男女共同参画室員) 助教 小畑千晴 (女性サポート相談室 相談員) 非常勤コーディネーター
実施内容	シンポジウム参加

概要	徳島大学 男女共同参画シンポジウム in 徳島大学「夢ある未来を拓こう！」
実施日	2011年11月12日 13:00～15:00
場所/主催	徳島大学常三島キャンパス (工学部工業会館2Fメモリアルホール)
参加者	保坂 雅子 (男女共同参画室員) 助教 門脇 孝弘 (男女共同参画室員) 助教
実施内容	シンポジウム参加

概要	第2回四国女性研究者フォーラム プレイベント
実施日	2012年1月27日 12:00～13:00
場所/主催	愛媛大学 校友会館2階サロン
参加者	小畑千晴 (女性サポート相談室 相談員) 非常勤コーディネーター
実施内容	ランチ交流会参加

概要	第2回四国女性研究者フォーラム
実施日	2012年1月27日 13:30～16:30
場所/主催	愛媛大学南加記念ホール (城北キャンパス)
参加者	小畑千晴 (女性サポート相談室 相談員) 非常勤コーディネーター
実施内容	シンポジウム参加

② 本学の取組への他大学からの視察

平成23年度実施

開催日	内 容
2011/5/10	香川大学男女共同参画推進室オリーブハート副室長 長安めぐみ氏 来学
2011/11/11	大阪府立大学女性研究支援センターとの情報交換

第IV部 平成23年度活動報告および関連資料

ii. 事業関係資料

1. 岡山大学関連データ

(1) 意思決定機関における女性の参画状況

① 過去5年間における役員数

		H19	H20	H21	H22	H23
常勤	男	7	8	8	8	7
	女	0	0	0	0	0
	計	7	8	8	8	7
	女性の割合	0%	0%	0%	0%	0%
非常勤	男	3	2	2	2	1
	女	0	0	0	0	0
	計	3	2	2	2	1
	女性の割合	0%	0%	0%	0%	0%

② 過去5年間における管理職員（管理職手当支給者）数

		H19	H20	H21	H22	H23
教(一)	男	109	108	107	108	113
	女	3	2	3	3	3
	計	112	110	110	111	116
	女性の割合	3%	2%	3%	3%	3%
一般(一)	男	48	47	47	44	43
	女	0	0	0	2	3
	計	48	47	47	46	46
	女性の割合	0%	0%	0%	4%	7%
医療 看護	男	1	1	1	1	1
	女	6	6	6	5	5
	計	7	7	7	6	6
	女性の割合	86%	86%	86%	83%	83%

(2) 教職員在職状況

① 過去5年間に於ける教職員在職状況（常勤・特契約、職種別・俸給表別）

		特契約のみ										
		H19	H20	H21	H22	H23						
常勤のみ	一般(一) (常勤)	男	430	414	404	391	390					
		女	163	168	169	173	178					
		計	593	582	573	564	568					
		女性の割合	27%	29%	29%	31%	31%					
		男	9	8	6	6	5					
		女	2	1	0	0	0					
		計	11	9	6	6	5					
		女性の割合	18%	11%	0%	0%	0%					
		男	81	78	78	75	75					
		女	54	55	55	55	54					
	計	135	133	133	130	129						
	女性の割合	40%	41%	41%	42%	42%						
	男	12	13	15	16	16						
	女	478	476	476	472	472						
	計	490	489	491	488	488						
	女性の割合	98%	97%	97%	97%	97%						
	男	1008	982	938	890	829						
	女	136	140	133	127	124						
	計	1144	1122	1071	1017	953						
	女性の割合	12%	12%	12%	12%	13%						
	男	13	13	13	14	14						
	女	15	15	15	14	15						
	計	28	28	28	28	29						
	女性の割合	54%	54%	54%	50%	52%						
	男	46	44	42	41	41						
	女	21	26	27	29	28						
	計	67	70	69	70	69						
	女性の割合	31%	37%	39%	41%	41%						
		H19	H20	H21	H22	H23						
	男	3	10	16	20	23						
	女	39	78	98	163	188						
	計	42	88	114	183	211						
	女性の割合	93%	89%	86%	89%	89%						
	男	0	0	1	2	0						
	女	5	6	10	5	5						
	計	5	6	11	7	5						
	女性の割合	100%	100%	91%	71%	100%						
	男	17	38	40	50	62						
	女	27	32	43	51	69						
	計	44	70	83	101	131						
	女性の割合	61%	46%	52%	50%	53%						
	男	10	14	14	19	24						
	女	291	358	358	373	378						
	計	301	372	372	392	402						
	女性の割合	97%	96%	96%	95%	94%						
	男	43	60	75	96	122						
	女	18	19	27	35	36						
	計	61	79	102	131	158						
	女性の割合	30%	24%	26%	27%	23%						
	男	0	0	0	0	0						
	女	0	0	0	0	0						
	計	0	0	0	0	0						
	女性の割合	0%	0%	0%	0%	0%						
	男	0	0	0	0	0						
	女	0	0	0	0	0						
	計	0	0	0	0	0						
	女性の割合	0%	0%	0%	0%	0%						
	男	0	0	0	0	0						
	女	0	0	0	0	0						
	計	0	0	0	0	0						
	女性の割合	0%	0%	0%	0%	0%						

② 平成23年度職位別職員数（平成23年5月1日現在）

	男性	女性	計	女性の割合
教員(常勤)	1164	218	1382	15.8%
一般職員(常勤)	396	182	578	31.5%
医療職員(常勤)	93	557	650	85.7%
合計	1653	957	2610	36.7%

役員等	男性	女性	計	女性の割合
学長	1	0	1	0.0%
理事	5	0	5	0.0%
監事	2(内非常勤1)	0	2(内非常勤1)	0.0%
エグゼクティブアドバイザー	2	0	2	0.0%
役員会	13	0	13	0.0%
経営協議会	13	0	13	0.0%
教育研究評議会	25	0	25	0.0%
部局長	19	0	19	0.0%
合計	80	0	80	0.0%

事務・技能・労務職員	男性	女性	計	女性の割合
事務局長	1	0	1	0.0%
部長級	9	0	9	0.0%
課長級	27	3	30	10.0%
総括主査・専門員	34	5	39	12.8%
主査・主任専門職員	124	23	147	15.6%
主任	50	54	104	51.9%
事務職員・専門職員	53	72	125	57.6%
その他(一般(二)職員)	5	0	5	0.0%
合計	303	157	460	34.1%

技術職員	男性	女性	計	女性の割合
部長級	1	0	1	0.0%
課長級	3	0	3	0.0%
総括主査	3	0	3	0.0%
主査	5	0	5	0.0%
主任	6	1	7	14.3%
技術職員(施設系)	4	0	4	0.0%
技術専門員	5	1	6	16.7%
技術専門職員	49	12	61	19.7%
技術職員(教室系)	8	2	10	20.0%
合計	84	16	100	16.0%

図書職員	男性	女性	計	女性の割合
部長級	1	0	1	0.0%
課長級	2	0	2	0.0%
総括主査	1	0	1	0.0%
主査	2	3	5	60.0%
図書職員	4	6	10	60.0%
合計	10	9	19	47.4%

医療技術職員	男性	女性	計	女性の割合
医療技術部長	1	0	1	0.0%
薬剤師	19	6	25	24.0%
診療放射線技師	24	4	28	14.3%
栄養士	0	5	5	100.0%
臨床検査技師	19	28	47	59.6%
その他の医療技術職員	13	12	25	48.0%
合計	76	55	131	42.0%

看護職員	男性	女性	計	女性の割合
看護部長	0	1	1	100.0%
副看護部長	0	4	4	100.0%
看護師長	2	33	35	94.3%
副看護師長	4	87	91	95.6%
看護師・助産師・保健師	12	373	385	96.9%
准看護師	0	3	3	100.0%
合計	18	501	519	96.5%

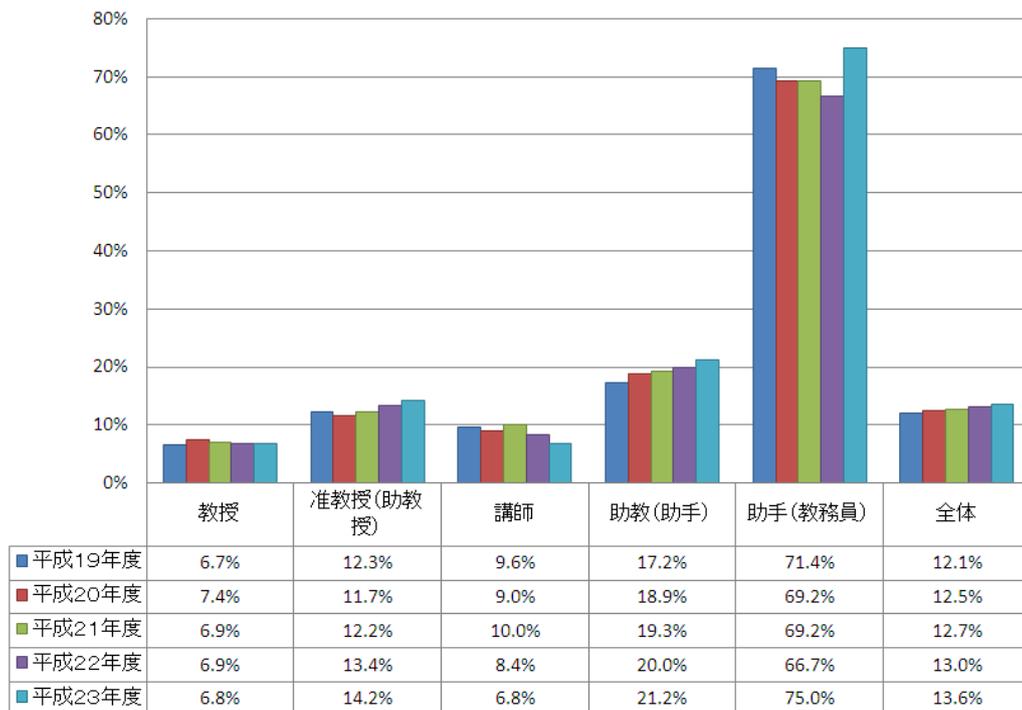
③ 過去5年間における部局別教員在職状況

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
教育学研究科	計	113	119	110	110	111
	女性(内数)	17	18	18	20	20
	女性の割合	15.0%	15.1%	16.4%	18.2%	18.0%
社会文化科学研究科	計	151	147	143	142	140
	女性(内数)	26	25	26	27	29
	女性の割合	17.2%	17.0%	18.2%	19.0%	20.7%
自然科学研究科	計	310	300	300	287	288
	女性(内数)	7	7	6	4	4
	女性の割合	2.3%	2.3%	2.0%	1.4%	1.4%
保健学研究科	計	63	63	64	63	62
	女性(内数)	32	32	33	31	30
	女性の割合	50.8%	50.8%	51.6%	49.2%	48.4%
環境学研究科	計	74	68	69	72	67
	女性(内数)	3	3	3	3	2
	女性の割合	4.1%	4.4%	4.3%	4.2%	3.0%
医歯薬学総合研究科	計	277	268	261	264	267
	女性(内数)	43	41	42	42	43
	女性の割合	15.5%	15.3%	16.1%	15.9%	16.1%
法務研究科	計	17	21	20	19	18
	女性(内数)	0	2	2	2	2
	女性の割合	0.0%	9.5%	10.0%	10.5%	11.1%
資源植物科学研究所	計	36	35	31	31	32
	女性(内数)	3	2	2	2	2
	女性の割合	8.3%	5.7%	6.5%	6.5%	6.3%
岡山大学病院	計	196	194	196	196	191
	女性(内数)	14	20	18	19	22
	女性の割合	7.1%	10.3%	9.2%	9.7%	11.5%
全学センター	計	73	73	73	82	88
	女性(内数)	14	13	13	17	20
	女性の割合	19.2%	17.8%	17.8%	20.7%	22.7%
地球物質科学研究センター	計	16	18	18	17	15
	女性(内数)	1	1	1	1	1
	女性の割合	6.3%	5.6%	5.6%	5.9%	6.7%
研究推進産学官連携機構	計		4	4	4	4
	女性(内数)		0	0	0	0
	女性の割合		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
極限量子研究コア	計			1	1	1
	女性(内数)			0	0	0
	女性の割合			0.0%	0.0%	0.0%
教育学部附属学校	計	97	100	101	100	98
	女性(内数)	37	42	46	45	43
	女性の割合	38.1%	42.0%	45.5%	45.0%	43.9%
合 計	計	1423	1410	1391	1388	1382
	女性(内数)	197	206	210	213	218
	女性の割合	13.8%	14.6%	15.1%	15.3%	15.8%

注:理学部所属教員は自然科学研究科に、環境理工学部所属教員は、環境学研究科に、学長戦略室所属教員は全学センターに計上している。

④ 過去5年間における職位別教員在籍状況

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
教授	計	466	457	447	451	454
	女性(内数)	31	34	31	31	31
	女性の割合	6.7%	7.4%	6.9%	6.9%	6.8%
准教授	計	365	369	377	380	372
	女性(内数)	45	43	46	51	53
	女性の割合	12.3%	11.7%	12.2%	13.4%	14.2%
講師	計	115	111	100	95	88
	女性(内数)	11	10	10	8	6
	女性の割合	9.6%	9.0%	10.0%	8.4%	6.8%
助教	計	366	360	353	350	358
	女性(内数)	63	68	68	70	76
	女性の割合	17.2%	18.9%	19.3%	20.0%	21.2%
助手	計	14	13	13	12	12
	女性(内数)	10	9	9	8	9
	女性の割合	71.4%	69.2%	69.2%	66.7%	75.0%
教頭	計	4	4	4	4	4
	女性(内数)	1	2	2	2	2
	女性の割合	25.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
主幹教諭	計	0	2	2	2	2
	女性(内数)	0	0	0	0	0
	女性の割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
教諭	計	89	88	90	88	87
	女性(内数)	32	34	39	37	36
	女性の割合	36.0%	38.6%	43.3%	42.0%	41.4%
養護教諭	計	4	5	4	5	4
	女性(内数)	4	5	4	5	4
	女性の割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
栄養教諭	計	0	1	1	1	1
	女性(内数)	0	1	1	1	1
	女性の割合	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計	計	1423	1410	1391	1388	1382
	女性(内数)	197	206	210	213	218
	女性の割合	13.8%	14.6%	15.1%	15.3%	15.8%



⑤ 過去5年間における職位別女性教員比率の推移

(4) 教員採用状況

① 過去5年間における部局別教員採用状況

		平成19年度 H19.4.1～ H20.3.31	平成20年度 H20.4.1～ H21.3.31	平成21年度 H21.4.1～ H22.3.31	平成22年度 H22.4.1～ H23.3.31	平成23年度 H23.4.1～ H23.9.1
教育学研究科	計	0	11	3	8	5
	女性(内数)	0	1	1	2	1
	女性の割合	0.0%	9.1%	33.3%	25.0%	20.0%
社会文化科学研究科	計	3	3	8	10	1
	女性(内数)	0	0	4	2	1
	女性の割合	0.0%	0.0%	50.0%	20.0%	100.0%
自然科学研究科	計	12	10	11	13	9
	女性(内数)	0	1	0	0	1
	女性の割合	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	11.1%
保健学研究科	計	5	6	5	0	2
	女性(内数)	4	4	4	0	2
	女性の割合	80.0%	66.7%	80.0%	0.0%	100.0%
環境学研究科	計	2	6	7	2	3
	女性(内数)	0	0	0	0	0
	女性の割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
医歯薬学総合研究科	計	12	13	20	20	14
	女性(内数)	2	0	1	5	3
	女性の割合	16.7%	0.0%	5.0%	25.0%	21.4%
大学院法務研究科	計	4	2	1	2	1
	女性(内数)	1	1	0	0	0
	女性の割合	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
資源植物科学研究所	計	0	1	1	1	2
	女性(内数)	0	0	0	0	1
	女性の割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
岡山大学病院	計	37	26	24	36	20
	女性(内数)	6	2	3	6	5
	女性の割合	16.2%	7.7%	12.5%	16.7%	25.0%
その他	計	13	7	9	14	5
	女性(内数)	3	2	3	5	1
	女性の割合	23.1%	28.6%	37.5%	35.7%	20.0%
合計	計	88	85	89	106	62
	女性(内数)	16	11	16	20	15
	女性の割合	18.2%	12.9%	18.0%	18.9%	24.2%

② 過去5年間における職位別教員採用状況

		平成19年度 H19.4.1～ H20.3.31	平成20年度 H20.4.1～ H21.3.31	平成21年度 H21.4.1～ H22.3.31	平成22年度 H22.4.1～ H23.3.31	平成23年度 H23.4.1～ H23.9.1
教授	計	15	14	9	11	10
	女性(内数)	4	1	0	1	2
	女性の割合	26.7%	7.1%	0.0%	9.1%	20.0%
准教授	計	19	15	25	26	9
	女性(内数)	4	1	7	4	3
	女性の割合	21.1%	6.7%	28.0%	15.4%	33.3%
講師	計	4	8	4	4	3
	女性(内数)	0	2	1	2	1
	女性の割合	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	33.3%
助教	計	50	48	51	65	40
	女性(内数)	8	7	8	13	9
	女性の割合	16.0%	14.6%	15.7%	20.0%	22.5%
合計	計	88	85	89	106	62
	女性(内数)	16	11	16	20	15
	女性の割合	18.2%	12.9%	18.0%	18.9%	24.2%

(5) 研究活動における女性の活躍状況

① 平成23年度科学研究費補助金採択率

	研究者番号 取得者数 ※1 (A)	新規応募人数 (B)	新規採択人数 (C)	新規採択者率 C/B(%)	継続人数 (E)	応募人数 (新規・継続) (F)	課題取得人数 (新規・継続)※2 (G)	課題取得者率 G/A(%)	課題採択率 G/F(%)
教授	女性	32	11	3	6	16	9	28%	56%
	男性	442	236	87	133	332	204	46%	61%
准教授	女性	51	22	9	17	37	26	51%	70%
	男性	320	199	79	104	290	177	55%	61%
助教	女性	98	56	21	23	76	43	44%	57%
	男性	343	215	71	91	293	158	46%	54%
助手	女性	8	3	0	1	4	1	13%	25%
	男性	10	4	0	2	6	2	20%	33%
講師	女性	6	4	2	2	6	4	67%	67%
	男性	85	54	17	22	74	37	44%	50%
その他	女性	75	20	5	11	31	16	21%	52%
	男性	160	49	16	15	64	31	19%	48%
計	女性	270	116	40	60	170	99	37%	58%
	男性	1360	757	270	367	1059	609	45%	58%
合計	1,630	873	310	36%	427	1,229	708	43%	58%

※1 研究者番号取得者数は、平成23年6月3日現在のe-Rad登録名簿より抽出。
 ※2 課題取得者人数(新規・継続)は、新規と継続の両方取得している者がいるため、(C)と(E)の合計となっていない。

(6) 学生数 (平成23年5月1日現在)

① 学士課程の在学状況

学部学生	男性	女性	計	女性の割合
文学部	228	554	782	70.8%
教育学部	394	791	1185	66.8%
法学部	530	452	982	46.0%
経済学部	738	358	1096	32.7%
理学部	477	173	650	26.6%
医学部	620	739	1359	54.4%
歯学部	154	196	350	56.0%
薬学部	202	222	424	52.4%
工学部	1907	277	2184	12.7%
環境理工学部	530	135	665	20.3%
農学部	267	276	543	50.8%
MP	32	35	67	52.2%
合計	6079	4208	10287	40.9%

② 修士課程・博士前期課程の在学状況

修士課程・博士前期課程	男性	女性	計	女性の割合
教育学研究科	59	85	144	59.0%
社会文化科学研究科	94	93	187	49.7%
自然科学研究科	904	163	1067	15.3%
保健学研究科	28	37	65	56.9%
環境学研究科	172	49	221	22.2%
医歯薬学総合研究科	78	48	126	38.1%
合計	1335	475	1810	26.2%

③ 博士課程・博士後期課程の在学状況

博士課程・博士後期課程	男性	女性	計	女性の割合
社会文化科学研究科	31	46	77	59.7%
自然科学研究科	194	60	254	23.6%
保健学研究科	20	56	76	73.7%
環境学研究科	51	23	74	31.1%
医歯薬学総合研究科	547	229	776	29.5%
合計	843	414	1257	32.9%

④ 専門職学位課程の在学状況

専門職学位課程	男性	女性	計	女性の割合
教育学研究科	27	16	43	37.2%
法務研究科	91	72	163	44.2%
合計	118	88	206	42.7%

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン『研究サポート制度』

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン『研究サポート制度』

研究支援員事業

整備状況

本学では、平成22年8月より研究支援員事業に関する要項を制定し、大学の正式な制度として研究支援員事業を実施しています。同時に、「研究支援員事業」という利用者向けの案内を作り、ホームページなどで公開しています。

【制度の概要】

利用対象 理学系女性教員および非常勤研究員（平成23年7月より）
利用理由 出産・育児（小学6年まで）・介護
利用期間 6ヶ月（再応募可）
適応した利用期間 最大20時間

岡山大学では、出産・育児・介護等により研究活動に支障が生じることが多い女性教員に対して研究補助を行う研究支援員を配置し、研究の継続を支援しています。平成23年度10月からは理学だけでなく文系の女性も利用できるようになりました。同時に男性も利用できるようになりまし。

効果



実施状況

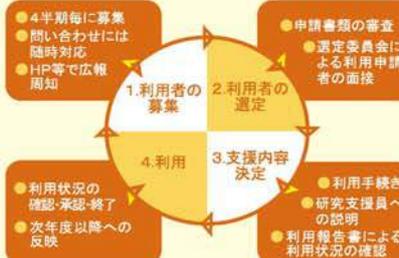
利用者数
平成21年度 2名
平成22年度 6名
平成23年度 9名

申請した研究支援員
平成21年度 4名
平成22年度 10名
平成23年度 11名

研究支援員のべ15名（うち男性3名、学生・大学院生9名、ポスドク1名。）

学費
平成22年度 約400万円
平成23年度 約800万円（見込み）

岡山大学法人岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 研究支援員事業の流れ



利用者のプロフィール

【子どもの数および年齢】
7月に申請が認められた利用者（8名）の場合、子どもの数は1人（4名）か2人（4名）に分かれます。子どもの年齢は、就学前の子どもを持つ利用者が7名で、うち、3才以下の子どもを持つ利用者が6名です。

利用者からは、「夜間や休日に家族と過ごす時間が増えた」、「一緒に頑張ってくれている人がいることが、私自身の励みにもなり、更なる意欲をもって研究に取り組むことができた。」といった感想をいただいています。また、利用者にはニュースレターやホームページ等での広報活動にもご協力いただいております。

研究支援員事業に関する意見交換会の実施

男女共同参画室員と共に、研究支援員事業利用者や人材登録バンク登録者が事業終了後の研究支援員事業のあり方について、全員の状況や学内での話を下にして意見交換を行いました。

第1回 平成23年 8月31日（水） 鹿田地区にて実施
第2回 平成23年10月14日（金） 津島地区にて実施

岡山大学人材登録バンク

整備状況

岡山大学では、平成21年度より人材登録バンクを設置してホームページ等で登録を呼びかけました。平成23年5月20日には、学長鑑定により「岡山大学人材登録バンク利用に関する内規」を制定しました。

岡山大学人材登録バンクは、研究支援員候補となる人材に関する情報を管理し、女性教員に提供することを目的として設置されています。平成23年度からは、女性教員であれば研究支援員事業の利用とは関係なくバンクを利用できるようになりました。今後バンクを活用することが期待されています。

登録実績

岡山大学人材登録バンクには様々な経験を持った方が登録しています。

年齢
学外者 36%
学内者 64%

性別
男性 70%
女性 30%

登録者数: 59名(平成23年10月1日現在)

登録者
・学生・大学院生
・家庭の主婦
・リタイアした方
・パート/アルバイト等

研究支援者になるまで

1. 女性教員 2. 人材に関する情報提供 3. 研究支援 4. 採用決定 5. 利用後の報告
利用申し込み

女性教員からの希望に応じて、男女共同参画室がバンク登録者の中から候補者に関する情報を提供した後、女性教員自身が候補者を面接する等して研究支援者を決定します。

利用実績（支援例）

● 研究支援員事業利用者のサポート
● 育児休暇中の女性教員の研究引越しのサポート
● 高層研究費獲得による支援者雇用
● 技術職員の長期休業に伴う雇用

広報活動

チラシ・カードの配布
配布先: 同窓会、岡山市内各書庫、公民館
岡山大学人材登録バンク説明会の実施
実施時期: 平成23年6月、7月、10月
実施場所: 学内3か所(津島・鹿田)および筑波大学学習センター
研究支援員の方にもご協力いただきました。

メンター事業

メンタリングに関するセミナー

本学におけるメンタリングに関する理解を促進するために公開で実施しています。

第1回 「大学におけるメンター事業の現状と課題」
女性研究者のニーズに応える(平成22年11月11日)
講師: 田中真由氏(東北大学大学院理工学研究所 教授)
三宅 恵子氏(岐阜大学男女共同参画推進室 特任准教授)

第2回 「大学教員としてのメンタリング実践」
(平成23年12月16日実施(予定))
講師: 中井 俊樹氏(名古屋大学高等教育研究センター 准教授)

メンタリングに関する勉強会

男女共同参画室員やメンター・メンティーマンがメンタリングについてお互いに学び、意見交換することを趣旨として実施しています。

第1回 平成22年12月16日・21日・22日実施
(男女共同参画室員・メンター教員対象)

第2回 平成23年1月20日・26日実施(メンター教員対象)

第3回 平成23年5月9日・12日実施(ニューア・トラック教員対象)

なお、勉強会の成果は第14回徳太郎フォーラム(平成23年9月9日に岡山大学教育開発センター主催により開催)で発表しました。

メンター養成研修
平成21年12月7日・8日実施(連続)

メンター・メンティーマン交流会

ニューア・トラック教員とメンター教員との間での交流の機会を提供することで、日頃のメンタリングの実践の促進と意識向上を意図して実施しています。

第1回 平成23年7月28日実施
第2回 近々実施予定

女性サポート相談室

目的 女性研究者が仕事と家庭・子育て・介護等の両立をスムーズに行うために、心理学的側面や情報提供により支援していくこと

開設 平成22年1月

対象 女性研究者・女性教職員・女子学生
(女性サポート等に関する相談であれば男性の相談も可)

相談場所 学内カ所(鹿田地区・津島地区)

相談時間 10時～16時

相談内容 ① 出産・育児・介護と仕事の両立に関する相談等
② 教育・研究・修学環境に関する相談等
③ メンタルヘルスに関する相談等

相談員 小畑 千晴 博士(臨床教育学)・臨床心理士

相談利用者の属性
性別: 女性 7% (n=143), 男性 93% (n=143)
学内: 学生 15%, 教員 41%, 職員 29%, 教務 15%

地区別利用率
鹿田 33% (n=143), 津島 67% (n=143)

相談方法
TEL: 99% (n=143), 面談 1% (n=143)

Career Cafe
目的: キャリアを築きながら、家事や育児などもこなす女性たちが集まり、仕事や家事、子育てについて話し合い、情報交換をすることや自分について考えとこと

対象: 女性教職員
開催形態: 昼休みに開催
開催回数: 7回
参加人数: 合計54名

研究スキルアップ講座

主として若手女性研究者を対象に、専門家や先輩研究者から分野を問わず研究に役立つ話題を聞く機会を提供しています。

回	講演タイトル	講師
第1回 (平成22年9月)	「科学研究費補助金申請書の書き方」 「私の研究費獲得経験」	阪田 祐作 TIL 研究推進室学芸連携機構 研究推進室部長・名誉教授 池島 美穂 大学院院理学総合研究科(前)准教授 大守 伊織 大学院院理学総合研究科(医)助教
第2回 (平成23年1月)	「岡山大学の知的財産と研究者心構えとしての特許」 「学外との積極的な交流による研究の推進について」	鎌邊 裕 研究推進室学芸連携機構 副機構長 知的財産本部長・教授 富田 栄二 大学院院自然科学研究科(工) 教授
第3回 (平成23年3月)	「産学連携・共同研究のツボ」 「私の共同研究経験」	藤原 真 研究推進室学芸連携機構 産学連携本部長・准教授 西郷 正洋 大学院院理学総合研究科(医) 教授
第4回 (平成23年9月)	「研究力3倍増強計画～個性を伸ばせば学会員がとれる～」	塚本 真也 大学院院自然科学研究科(工) 教授
第5回 (平成23年10月)	「国産教育ロボット(ドローン)開発」 「開発があれは予算は後からついてくる?」 「ロボットの共同研究はむずかしい?」 「へび型ロボットの事例」	松野 文俊 京都大学工学研究科 教授 亀川 智志 大学院院自然科学研究科(工) 講師

お問い合わせ先



国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号 TEL&FAX:086-251-7011 E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン『雇用』

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン『雇用』 岡山大学ウーマン・テニユア・トラック制度

岡山大学ウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員制度



WTT教員制度とは、女性研究者を対象に3年間助教（WTT教員）として本学に受け入れ、専門分野の近い研究科において独立した教員としての経験を積みみます。評価委員会等において、テニユア教員の採用基準に達していると評価されれば、テニユア教員として採用される人事システムです。

*テニユア教員とは、任期を付さない職又は岡山大学教員の任期に関する規程に定める再任可能な任期付きの職（再任回数に制限がある職を除く）。

これまでの採用実績

平成21年に岡山大学独自の事業として、「ウーマン・テニユア・トラック(WTT)制度」を構築し、女性教員の雇用促進・育成を推進しています。平成22年4月に第1期WTT教員を4名採用、平成23年4月には第2期WTT教員を3名採用し、同時に教育・研究活動の助言・支援を行うメンター教員を委嘱しました。7名のWTT教員は、それぞれの研究領域において研究成果、研究費獲得の実績を上げており、さらには教育に関する経験も積み女性研究者として活躍しています。平成24年度(第3期WTT教員)は4分野から募集し、3~4名を採用予定としています。



第1期WTT教員授任式
平成22年4月1日
(学長室にて)



第2期WTT教員授任式
平成23年4月4日
(学長室にて)

【第1期・第2期WTT教員採用人数】

- ・第1期WTT教員 4名採用(学外2名、学内関係者2名)
- ・第2期WTT教員 3名採用(学外1名、学内関係者2名)

第1期WTT教員紹介



第2期WTT教員紹介



WTT教員の男女共同参画室での活躍

講義 教養教育科目 講義

男女共同参画室が開講している教養教育科目「社会人のためのプレリユード：望ましいライフスタイル実現のために」の第2回講義を担当。

講義 第1回講演会「自然科学に惹かれて」

WTT教員3名が講師として、研究内容の紹介に加えて自身の経験や研究者の魅力について学生および大学院生を対象に講演を行いました。
*教養教育科目「社会人のためのプレリユード：望ましいライフスタイル実現のために」第14回講義の一環として開催。

産学分野への興味と理解を！

おがやまサイエンス・トーク

“科学のおもしろさ”と“科学の神秘、深遠さ”を語り、理系分野への理解と興味を高めてもらうことを期待して、県内の高等学校・中学校などで、希望する学校と共催して平成22年度から継続して開催しています。毎回の「おがやまサイエンス・トーク」では、WTT教員が講師として研究紹介の後、生徒の皆さんから多数の質問があり、活発なフリートークが行われています。
(平成22年度4回実施、平成23年度5回実施予定)

持続性

メンター教員の配置

WTT教員の支援を行うため、メンター教員を配置しています。メンター教員は、WTT教員に対して教育・研究上の指導及び助言を行うとともに、円滑に教育・研究を遂行することができるように支援を行っています。

研究支援員の配置

本学では、出産・育児・介護等の理由で研究時間の確保が困難な女性教員を対象として研究支援員を配置する「研究支援員事業」を配置しています。「研究支援員事業」を利用しているWTT教員に対しては、メンター教員をリーダーとする支援グループを編成し、教育・研究活動をサポートしています。

研究サポート体制

お知らせ

平成24年度第3期WTT教員の採用について（応募受付は終了しました）

- 〔4分野で各1名募集し、全分野で3~4名採用予定〕
- ・自然科学研究科バイオサイエンス専攻 植物機能開発学講座
- ・自然科学研究科バイオサイエンス専攻 動物機能開発学講座
- ・環境学研究科社会基盤環境学専攻 農村環境創造学講座
- ・医薬学総合研究科創薬生命科学専攻 創薬科学講座または先導薬物創薬開発学講座

「テニユアトラック普及・定常事業（機関連接型）」に採択

岡山大学ウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員制度が平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニユアトラック普及・定常事業（機関連接型）」に採択され、第1期および第2期WTT教員、並びに現在募集中の第3期WTT教員（平成24年度4月1日採用）が支援対象になりました。

お問い合わせ先



国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

TEL&FAX:086-251-7011 E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン『持続性』

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン『**持続性**』次世代女性研究者
育成推進事業

体験・科学のおもしろさ
おかやまサイエンス・トーク

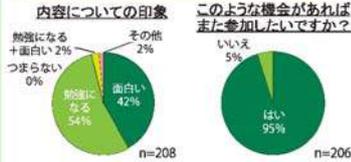
概要

岡山大学ウーマン・ニュア・トラック(WTT)教員と大学院生が理系分野の研究紹介を通して、中・高校生に“科学のおもしろさ”、“科学の神秘・深遠さ”を伝え、理系分野への興味を深めることを期待し、中学・高校へ向かい「おかやまサイエンス・トーク」を実施しています。



平成22年度から開始した本事業は、これまで岡山県内の高校・中学校を対象に9回実施しています。各回とも生徒の皆さんからは、研究内容に限らず、大学生活に関することなど多くの質問が寄せられており、活発なフリー・トークが行われるなど好評を博しています。また、事前に打ち合わせや研究紹介の練習会を行うなど準備に力を入れています。

アンケート結果（平成22年度実施分）



参加者の感想(例)
・今まで知らない分野の話で新鮮だった。
・分かりやすく面白かった。
・研究内容が分かりやすく、とても興味を持った。など
アンケートで寄せられた質問に対しては、研究紹介者が回答を作成しフィードバックを行っています。

これまでの実施内容（～平成23年10月）

開催	研究紹介タイトル	研究紹介者
岡山山一宮高校 (平成22年7月)	「理生生態学を通して見た研究者への道」 「植物の生存戦略」	田崎 ゆかり 大学院自然科学研究科 博士後期課程3年 吉岡 美保 大学院自然科学研究科 特任助教 WTT教員
清心女子高校 (平成22年8月)	「鳥の羽色の性質をつくりだすしくみ」 「植物のストレス解消法」	吉原 千尋 大学院自然科学研究科 博士前期課程9年 三谷 奈見季 資源植物科学研究所 特任助教 WTT教員
県立総社高校 (平成22年9月)	「時節を知る生物～生物が持つ時計～」 「植物はどうして緑色？」	瓜生 大次 大学院自然科学研究科 博士前期課程2年 吉岡 美保 大学院自然科学研究科 特任助教 WTT教員
県立玉島高校 (平成22年11月)	「クロスカップリング反応-新しいオレフィン合成の展開」 「海の不思議を探る」	岡田 貴士 大学院自然科学研究科 博士前期課程2年 御真 真穂 大学院自然科学研究科 特任助教 理学部附属牛久保臨海実験所 WTT教員
県立総社高校 (平成23年7月)	「季節を知る生物」 「生命を支える細胞」	玉木 沙織 大学院自然科学研究科 博士前期課程1年 前田 恵 大学院自然科学研究科 特任助教 WTT教員
県立岡山高校 (平成23年7月)	「CPGによる4脚歩行ロボットの歩容生成」 「生物の行動を支配するホルモン、その進化」	西原 麻衣子 大学院自然科学研究科 博士前期課程2年 御真 真穂 大学院自然科学研究科 特任助教 理学部附属牛久保臨海実験所 WTT教員
県立矢野高校 (平成23年7月)	「生物の行動と体内時計」 「電子の動きを探って物質の性質を見よう、変えよう」	花房 志保 大学院自然科学研究科 博士前期課程1年 江口 律子 大学院自然科学研究科 特任助教 理学部附属牛久保臨海実験所 WTT教員
教育学部附属中学校 (平成23年9月)	「ぜんそく重症度の簡易検査キット」 「光合成の研究」	兵田 朋子 大学院保健衛生学研究科 博士前期課程2年 吉岡 美保 大学院自然科学研究科 特任助教 WTT教員
岡山山一宮高校 (平成23年10月)	「ヤマブドウの光がん学効果について」 「森の樹木の豊作と凶作：開花・結実のメカニズムと次世代の獲し方」	藤井 奈々 大学院医歯薬学総合研究科 博士前期課程2年 宮崎 祐子 大学院環境学研究科 特任助教 WTT教員

2011年岡山大学オープンキャンパス参加企画
理系の魅力 女子高生のみなさんへ



理系(理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学)の女子学部生、大学院生12名がフリー・トークおよび研究紹介ポスターの展示・説明を行い、高校生に理系のおもしろさ、魅力を伝えました。また、事前に学生同士が自己紹介をする機会を設け、専門分野や学年等の異なる学生同士の交流を通して、協力学生に対しても視野を広げる機会を提供することができました。



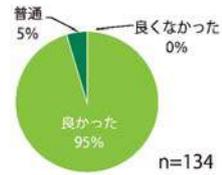
フリー・トーク (207名の高校生・保護者が参加しました。)

アンケート結果

回答者の属性



「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」コーナーはいかがでしたか?



参加者の感想

「理系に対しての印象が変わりおもしろそうだった」。「理系は二ガテだと思っていたけど今日のお話で印象が変わったので、もっと考えてみようと思った」など、多数の感想が寄せられました。

協力学生の感想

「他学部、他学科の学生と交流する機会がなかったので勉強になった」。「高校生が実際に大学生に話を聞くことが現実的で有意義な面も多かったです」などの感想が寄せられました。

理系女子大学院生の
研究生生活の実態およびニーズに関する調査

平成22年11月24～26日に自然科学研究科(理・工・農)および環境学研究所の女子大学院生を対象に研究生生活の実態およびニーズ調査を行いました。協力していただいた合計20名の大学院生を4グループに分け、参加者3～7名に対してファシリテーター1名(保坂 雅子:男女共同参画室 助教)でグループインタビューを行いました。

【特に多かった問題点】

- 研究室の方針で拘束時間が長く、休みが取れない。
- 仕事量が多い。
- 研究室の物理的環境が悪い。
- 研究室の教員の態度・指導方法に不満がある。
- 夜間キャンパス内が危ない。

参加者のプロフィール

博士前期課程1年-13名、他7名
理学系-3名、工学系-10名、農学系-7名

その他に、こんなことも話しました

- 「将来のキャリアに対する考え方」
- 「理系における女性の少なさについて」
- 「留学環境に対する意見・要望」

新講義の開講

平成23年度より、男女共同参画の視点からキャリアについて考えることを目的とした講義(教養教育科目・主修科目(人間と社会)・2単位)を開講しています。初年度は、「社会人のプレリウド:望ましいライフスタイル実現のために」と題し、学内外からの協力を得て、以下のテーマについて授業を行いました。

- 「夢・自分探し」
- 「恋愛・結婚」
- 「働く」
- 「働く・なる」
- 「女性のキャリア形成」

ほぼ毎週1,000名のレポートに耐えた37名(過半数は男性！)が単位を取得しました。

- 担当
- 保坂 雅子 (男女共同参画室 助教)
 - 横井 友恵 (大学院医歯薬学総合研究科 准教授)

平成23年度の協力者一覧(敬称略)

学内

- 有海 恒夫 (キャリア開発センター 准教授)
- 江口 律子 (大学院自然科学研究科 特任助教)
- 大島 光子 (ハラスメント防止対策室 室長)
- 御真 真穂 (大学院自然科学研究科 特任助教)
- 小畑 千晴 (男女共同参画室 女性サポート相談室 相談員)
- 中塚 幹也 (大学院医歯薬学総合研究科 教授)
- 三谷 奈見季 (資源植物科学研究所 特任助教)
- 吉岡 美保 (大学院自然科学研究科 特任助教)

学外

- 市場 恵子 (社会心理学講師、心理専門相談員)
- 岩田 健一 (岡山県立岡山高校 常勤講師)
- 沢山 美穂子 (大学院社会文化科学研究科 客員研究員 国立民族学博物館特別客員教授)
- 藤部 道明 (岡山市こども総合相談所 施設担当係長)

次世代女性研究者推進事業 講演会
第1回講演会「自然科学に魅せられて」

WTT教員3名が研究者となった過程や現在の仕事について、学生および大学院生を対象として講演を行いました。「社会人のためのプレリウド」受講生を初めとする66名が参加し、講師とのフリー・トークも行いました。

- 講演1 「物質の性質と機能を探る～電子状態から見る物質」
江口 律子 (大学院自然科学研究科 機能分子科学専攻 特任助教)
- 講演2 「気がつけば研究者」
御真 真穂 (大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻 特任助教)
- 講演3 「私の過去・現在・未来」
三谷 奈見季 (資源植物科学研究所 特任助教)

参加者からのコメント
「充実した生活を送られている方のお話を聞き、私も人生に納得できるような道を探ってみたいと思いました。」「研究に就職を結びつけた話をもっと聞きたい。」



お問い合わせ先



国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

TEL & FAX: 086-251-7011 E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン『広報・意識啓発活動』

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン『広報・意識啓発活動』

広報活動

ニュースレター
& ニュースレターラピッド

平成22年7月に創刊号を発行して以来、全学の教職員及び大学院生に配布しています。平成23年8月現在、第5号まで発行しています。
また、平成23年度からは速報版としてニュースレターラピッドも発行しています。
(平成23年8月現在Vol.4まで発行)



創刊号

第2号～第6号

男女共同参画室ロゴマーク

全国から応募された作品の中から決定しました。岡山大学が推進する「男女共同参画」に、本学の皆様を始め、全国の方々にも広く関心をもっていただくことを目的として活用しています。



岡山大学の「O」をモチーフに、岡山特産のマスカットをイメージして描かれ、未来をみつめる男女を象すと同時に、創造性・革新性・柔軟性をそれぞれ意味する三つの輪をつなぎ合わせることで共生社会が表されています

事業成果中間報告書（平成23年3月発行）



調査

調査結果はHPや報告書で報告するとともに、事業に生かしています。

- 岡山大学の男女共同参画推進に関するアンケート調査（平成21年10～11月実施）
全学の教職員および大学院生を対象にして、①仕事・職場環境、②仕事・研究と生活の両立支援、③キャリア形成、④男女共同参画の現状と意識について調査しました。教員802名、大学院生等1,129名、職員1,582名が回答（回収率はそれぞれ42.6%、38.4%、68.7%）。結果はホームページで公開すると共に事業成果中間報告書別冊としてとりまとめました。
- 岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査（平成22年8月実施）
女性教員に対して、①研究活動向上のための支援ニーズ、②メンター事業のニーズ、および③女性研究者支援の対象についての考えをWeb上で調査しました。（53名より回答あり、回収率24.8%）
- 岡山大学における学内保育施設に関するニーズ調査（平成22年9月実施）
学内教職員が育児と仕事を両立できるように、学内における保育サービスの向上を目的としてニーズ調査を実施しました。
- 岡山大学における理系大学院生の研究生活の実態およびニーズに関する調査（平成22年11月実施）
自然科学研究科および環境学研究科に所属する女子大学院生を対象に研究生活の実態およびニーズ調査を行いました。
- 女性のための施設・設備の整備状況に関する調査（平成22年10月～11月実施）
平成22年10月～11月に津島地区で実施しました。

意識啓発

交流サロン

男女共同参画推進に関する情報の共有化や意識の啓発・改革が一層進むことを目指して、平成21年度から継続して実施しています。少人数のグループで参加者同士がざっばらんに意見を出し合い、その内容を全体に披露することで認識を深めています。

平成21年度

- 第1回交流サロン（平成21年9月29日）
「～意識改革へのスタートライン～」
講師：佐藤 孝氏（新潟大学女性研究者支援室・工学部 教授）
- 第2回交流サロン（平成21年11月13日）
「私らしく働く研究者への道 ～ロールモデルと出会い、仲間と語る～」
岡山大学の女性研究者4名による体験談
- 第3回交流サロン（平成22年3月5日）
「講義の場における男女共同参画社会の構築をめざして」
講師：和菜氏（岡山市男女共同参画推進センター企画開発官）
秋山 繁治氏（ノートルダム清心学園 清心女子高等学校 教諭）

平成22年度

- 第1回交流サロン（平成22年6月4日）
「若い世代に贈る言葉 共働き、子育てを楽しく！」
講師：榎垣 賢二氏（大学院自然科学研究科副研究科長・教授）
- 第2回交流サロン（平成22年7月30日）
「育児と仕事の両立～どんな感じ？何が問題？～」
育児中の女性教職員3名による話題提供
- 第3回交流サロン（平成22年10月29日）
「女性研究者支援のこれらを考える ～フェミニストセザンブー&コミュニティ心理学の観点から～」
講師：高島 克子氏（東京女子大学 教授）
- 第4回交流サロン（平成23年2月7日）
「より良いパートナーになるために
男性って、女性って・・・どう思っているの？」
大学院医歯学総合研究科・医療人キャリアセンター・MUSCAT共催

平成23年度

- 第1回交流サロン（平成23年6月22日）
「信頼を築くコミュニケーション術～気持ちを抱く・気持ちを話す」
講師：市橋 恵子氏（心理専門相談員・広島大学等非常勤講師）
- 第2回交流サロン（平成23年10月21日）
「医療従事者として生きるということ」
大学院医歯学総合研究科・医療人キャリアセンター・MUSCAT共催

管理職セミナー

男女共同参画に関する意識啓発及び男女共同参画及び女性研究者支援を進めて大学が置かれている現状に関する情報提供を目的として、男女共同参画に関する管理職セミナーを実施しています。

第1回

平成22年9月10日（金）
「東北大学における男女共同参画推進の取り組みについて」
講師：折原 守氏（独立行政法人国立科学博物館理事
（前東北大学理事・人事労務・キャリア環境、男女共同参画担当）

第2回

平成23年6月15日（水）
「九州大学における男女共同参画推進の取り組みについて」
講師：倉地 幸徳氏
九州大学理事（国際・男女共同参画担当）、副学長・女性研究者キャリア開発センター長



参加動機：
「管理職の職務だから」（1位）
「男女共同参画一般に関心があるから」（2位）

シンポジウム

「世界は今、そして未来は～」（平成23年3月8日開催）
男女共同参画とワーク・ライフ・バランス（国際シンポジウム）

基調講演 講師：川端 和明氏（文部科学省科学技術・学術政策局 基盤政策課長）

特別講演 講師：Dr. Pornorn Janekankij氏（Kasetsart University, Thailand タイ国カセサート大学）
Ms. Saleem K. Hicks氏（京都女子大学・カナダ出身）

講演 講師：佐藤 洋平氏（独立行政法人農業環境技術研究所 理事兼）
金 恵淑氏（大分県農業産物総合研究科 准教授）

「ダイバーシティこそが活力を生む～女性研究者が活躍できる組織づくりをめざして～」
(平成22年12月16日開催)

講師：
奥馬のゆり氏（公立ほこだて未来大学 教授）
若切 良乃氏（株式会社東芝 多様性推進部長）



男女共同参画室
組織図



推進体制の整備

平成23年3月に岡山大学男女共同参画推進基本計画を策定しました。推進体制整備の一環として学長を委員長とするダイバーシティ推進委員会を設置し、全学的な取組を進めています。

【基本方針】

1. 教育・研究および就労における男女の均等な機会の保障
2. 教育・研究および就労と生活との両立支援
3. 男女共同参画の視点に立った人材育成
4. 男女共同参画に関する意識改革
5. 男女共同参画に関する取組における地域社会との連携

実施体制



お問い合わせ先



国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号 TEL&FAX:086-251-7011 E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

『女性サポート相談室』

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」(女性研究者支援モデル育成)

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

女性サポート相談室

相談室概要



- 目的：女性研究者が仕事と家庭・子育て・介護等の両立をスムーズに行うために、心理的側面や情報提供により支援していくこと。
- 開設：平成22年1月 □ 相談時間：10時～16時(5時間) □ 相談日：週3日
- 対象：女性研究者・女性教職員・女子学生(女性サポート等に関する相談であれば男性の相談も可)
- 相談内容：① 出産・育児・介護と仕事の両立に関する相談等
② 教育・研究・修学環境に関する相談等
③ メンタルヘルスに関する相談等
- 相談員：小畑 千晴 博士(臨床教育学) 臨床心理士



相談室の取組紹介(平成22年1月～平成23年9月)

Counseling

女性サポート相談室では、①個人へのアプローチとして、Counseling、②グループへのアプローチとして、Career Caféの実施、③利用者へのきめ細やかな対応を行うために関連機関へのアプローチとして、学内外機関および地域との連携(Network)を図りました。



Career café



実施概要

□ 目的：キャリアを築きながら家事や育児などもこなす女性たちが集まり、仕事や家事、子育てについて話したり、情報交換をすることや自分について考えること。

- 対象：女性教職員
- 開催形態：昼休み
- 実施回数：7回
- 参加人数：合計54人



開催日
第1回 平成22年5月26日(水)
第2回 平成22年7月30日(金)
第3回 平成22年9月29日(木)
第4回 平成23年12月8日(木)
第5回 平成23年4月27日(金)
第6回 平成23年6月29日(木)
第7回 平成23年9月9日(金)

参加者の感想

- 「キャリアカフェは今の私にとって日頃の悩みを言える場所になっています」
- 「子育ての先輩方のお話がとてもありがたかったです。…恐らく私にとって女性同士でお話することが必要だったのかもしれない。キャリアカフェの後、味方がこんなにいる！と感じました」
- 「両立のために、夫の協力がなくてはならないが、急に役割を変えられない」
- 「夫に手伝いを求めたいが、悪いと思ってしまう」
- 「子どもだけでなく夫も教育しないといけないのか」

効果と課題

- ・仕事と家事の両立という同じ境遇にある女性同士が繋がり、ネットワークができました。
- ・参加によって、仕事や子育てに関する情報収集ができるだけでなく、心理的なストレスの軽減にも貢献できました。
- ・Career Caféへの参加が、個人カウンセリングの導入にもなりました。
- ・女性だけの繋がりでは、両立の支援には不十分であり男性も巻き込んだ活動の必要性を感じました。



Network

学内連携

●相談者へのきめ細やかな対応のために、学内および学外の関係機関と連携を図りました。その結果、学内のすべての関連部署からリファラーがあり、相談者にとって適切な場所での対応を行うことができました。



学外・地域連携

●女性研究者支援事業に携わる他大学の相談員や地域の男女共同参画室の相談員とネットワークができたことにより、円滑な情報・意見交換が可能になりました。そのことが、相談者へのスムーズな情報提供にもつながり、いくつかの共同事業開催へと発展することができました。



課題

- 相談活動を通して、男性(夫)に家事や育児へ協力を求める声(男性の意識改革)と同時に、「夫に手伝いを求めたいが、悪いと思ってしまう」「夫も教育しないといけないのか」という感想が多く聞かれました。このことは、両立について男性だけでなく女性の意識にも課題があること、女性だけを支援していくことが、返って女性の負担にもなる場合があることも示唆しています。
- 以上の課題を克服するために、別々にアプローチするのでは不十分だと考えるようになりました。なぜなら、両立の問題は、女性の問題でも男性の問題でもなく、男女の関係性の問題だからです。女性だけへの支援では、その関係性を変えることはできないので、男女が一緒に考えることが必要です。従って、相談室の対象を女性だけでなく男性にも広げるべきだと考えています。

今後の相談室の方向性(案)

- ★ポスターの変更
(H23年度より男女を意識したイメージへ)
- ★名称の変更
(H24年度より女性サポート相談室から他の名称へ)
- ★目的の変更
(女性研究者支援を含む男女のWLBにかかわる相談へ)
- ★活動の変更
(次世代育成支援室の「育メンズクラブ」と協同し、Career Caféに男女とも参加へ)



『子育てしやすい環境を目指して』

岡山大学ダイバーシティ推進本部
ORGANIZATION FOR DIVERSITY MANAGEMENT
OKAYAMA UNIVERSITY

次世代育成支援室の取組



「子育て」しやすい環境を目指して

組織図



次世代育成支援対策推進法に基づく 岡山大学の第III期一般事業主行動計画

- 次世代育成支援室において、行動計画(案)を策定、目標を達成する
- 妊娠・出産、育児に関する諸制度の周知と利用促進、及び仕事と子育ての両立支援のための広報活動を行う
- 事業所内に設置されている保育施設、病児・病後児保育施設、長期休暇中の学童保育施設の管理・運営方法の見直しを行う
- 所定時間外労働削減のための取り組みを実施する
- 年次有給休暇の取得促進のための取り組みを実施する

【計画期間】
平成22年4月1日から
平成25年3月31日までの3年間



ケアの途切れない保育体制の充実

0歳 → 小学6年生

なかよし園
●生後57日から就学前まで保育
●延長・土曜保育あり
●定員70名

かいのき
●小学1年生から6年生まで保育
●長期休業中に開所
●地域にも一部開放
●定員60名

病児の時
●生後6か月から小学6年生までの病中・病後の子ども
●定員4名

家庭での保育
●乳幼児及び小学3年生まで(一部小学6年生まで対応)
●就労のために自宅でシッターサービスを受ける場合
●1日あたり1,700円の割引券を発行
●男女を問わず利用可能

休日業務(センター試験受験員等)のための一時保育
●生後12か月以上から小学6年生までを対象
●学童保育施設にて保育

各施設のさらなる充実に向け調査・提案等を行う

次世代育成支援文化の醸成

●ババの育児エッセイ集 (平成22年2月発行)
男性教職員が育児に関するさまざまな体験記を紹介

●家族の日(毎年8月に開催)
家族を職場に招き、職場訪問や職業体験を開催

●両立支援制度の紹介 (平成23年2月発行)
本学の出産・育児に関する制度の一覧を紹介

●男性教職員対象 子育てセミナー (平成23年10月開催予定)
男性教職員を対象として、男性が利用できる子育て支援制度紹介や仕事と家庭の両立に関するフリーディスカッションなどを行う

●おかやま子育て応援宣言企業へ登録 (平成23年9月登録)

●各種学内調査の実施
●学童保育施設の設置に関する調査 (平成19年10月実施)
●学内保育施設のニーズ調査 (平成22年8月実施)
●夕方会議自衛に関する調査 (平成23年9月実施)
●有給休暇取得促進に関する調査 (平成23年度実施予定)

●次世代認定マーク「くるみん」を取得 (平成22年12月登録)

働きやすい風土作りに向け多方面から取り組む

44023年9月30日現在

担当 岡山大学総務・企画部人事課ダイバーシティグループ

【岡山大学 次世代】で検索!

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/jisedai/index.html>

中国・四国地区国立大学 男女共同参画推進のための共同宣言

中国・四国地区国立大学 男女共同参画推進のための共同宣言

男女共同参画社会，すなわち全ての個人が持つ資質・能力を発揮できる社会の実現は，我が国の発展にとって重要かつ喫緊の課題です。中国・四国地区の10国立大学は，高等教育・研究機関として，地域発展の重要な先導を担い，学術研究の一層の進展及び有為な人材育成に貢献する責務を負っています。

これまで私たちは，男女共同参画社会の実現を目指して女性研究者支援や男女共同参画に関する意識啓発等，活発な取組を推進してきました。今後とも特徴ある取組を継続し，一層発展させていくとともに，次の5項目を実行していくことを宣言します。

- 一 大学構成員の女性比率の向上に努め，かつ意思決定過程への女性の参画機会を拡大すること
- 一 大学構成員が持てる資質・能力を最大限発揮できる教育・研究及び就労環境を整備・充実すること
- 一 男女共同参画の視点に立った人材育成を推進すること
- 一 男女共同参画社会実現への取組において，シンポジウム等を継続開催し，地域との協力・協働を進めること
- 一 男女共同参画社会実現に向けて，地区内での大学間の相互交流と連携を一層深化させること

平成23年11月11日

鳥取大学長	能 勢 隆 之
島根大学長	山 本 廣 基
岡山大学長	森 田 潔
広島大学長	浅 原 利 正
山口大学長	丸 本 卓 哉
徳島大学長	香 川 征
鳴門教育大学長	田 中 雄 三
香川大学長	長 尾 省 吾
愛媛大学長	柳 澤 康 信
高知大学長	相 良 祐 輔

おokayamaサイエンス・トークポスター

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）
「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」

体験・科学のおもしろさ
おokayamaサイエンス・トーク
Okayama Science Talk in High School



おokayamaサイエンス・トークとは？

岡山大学が進めている「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の一環として岡山大学男女共同参画室が行う事業です。岡山大学の若手女性研究者および大学院生が、現在進めている環境、生命、先端材料などの最先端の研究内容を高校生・中学生にわかりやすく説明いたします。



- 1 科学のおもしろさと科学の神秘、深遠さを知ってもらい、さらに、人類社会への科学の貢献、その重要性などについて理解を深めてもらうことを目指して行っています。
- 2 科学技術を基礎とした日本の国造りにとって、幅広い理系分野の研究を進めていくことが大変重要です。おokayamaサイエンス・トークを通して、理系分野への理解と興味を覚えてもらうことを期待して行っています。
- 3 フリートークの場で、少しだけ先輩の研究者や大学院生と身近な問題や将来の問題、また人生についてざっくばらんに話し合い、将来の職業について考える機会を提供します。

開催はどのようにされますか？

- 当面は、年5回程度開催する予定です。各回約90分間を予定しています。
- 県内外の高等学校・中学校などで、希望する学校と岡山大学の共催として開催いたします。
- 学校には会場の準備をお願いしますが、必要な経費は岡山大学で負担いたします。
- 開催を希望される学校は、下記連絡先までご連絡ください。



これまでの反響はどうですか？（おokayamaサイエンス・トークアンケート結果より）



アンケートに寄せられた質問に対しては、研究紹介者が回答を作成し、フィードバックを行っています。

感想

- ・科学を、すごく身近に感じる事ができて楽しかった。
- ・こんなに奥深いとはおもいませんでした。
- ・私ももっと学んでみたいなと思いました。
- ・理系に興味がもてました。
- ・大学の様子なども学べ、今後の参考になりました。
- ・研究職もいいものだと思います。など。

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
次世代女性研究者育成推進部門

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL&FAX：086-251-7011
E-mail：sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/fjinji/diversity/danjo/>

第3回中国四国男女共同参画シンポジウムポスター

文部科学省科学技術人材育成費補助金
「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

Symposium

第3回中国四国男女共同参画シンポジウム

女性研究者が活躍する大学 ～支援ネットワークの強化を目指して～

とき 2011年11月11日 [金]
シンポジウム 13:30～17:50 情報交換会 18:00～19:30

ところ 岡山コンベンションセンター
1F イベントホール

「ママカリフォーラム」岡山市北区駅元町14番1号



シンポジウム

- 開会挨拶** 13:30～ 許 南浩 (岡山大学ダイバーシティ推進本部長 岡山大学理事〈企画・総務担当〉・副学長)
- 特別講演** 13:35～ 「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」 文部科学省 科学技術・学術政策局基盤政策課
- 基調講演** 14:15～ 「女性研究者支援ネットワーク構築の現状と課題:三重県における事例報告」
鈴山 雅子 氏 (三重大学 男女共同参画コーディネーター)

休憩 14:55～15:10

事例紹介 15:10～

- 広島大学 坂田 桐子 氏 (男女共同参画推進室長)
- 島根大学 澤 アツ子 氏 (男女共同参画推進室長)
- 香川大学 長安めぐみ 氏 (男女共同参画推進室 副室長・コーディネーター)
- 徳島大学 本仲 純子 氏 (AWAサポートセンター長)
- 愛媛大学 小島 秀子 氏 (女性未来育成センター長)
- 岡山県 岡野 千鶴 氏 (県民生活部男女共同参画青少年課 課長)
- 岡山大学 富岡 憲治 氏 (ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 副室長)

ポスターセッション 16:30～

発表予定: 全国の大学及び地方自治体

パネルディスカッション 17:00～

テーマ: 「女性研究者が活躍する大学とは」

- パネリスト: 事例紹介発表者
- コメンテーター: 講演講師
- コーディネーター: 沖 陽子 (岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長)

学長宣言文の紹介 17:40～ 森田 潔 (岡山大学学長)

閉会挨拶 17:45～ 北尾 善信 (岡山大学理事〈財務・施設担当〉・事務局長)

情報交換会 18:00～19:30 [立食形式] **会場** 同イベントホール **参加費** 5,000円 (要予約11/4締切)

- 託児あり [無料]
※要申込 10/27 締切
- シンポジウム参加費無料
- 当日参加可
※なるべく事前参加
申込にご協力ください

お申し込み・お問い合わせ先



国立大学法人 岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL・FAX 086-251-7011 E-Mail sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp



主催 国立大学法人岡山大学 後援 岡山県・岡山市

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン 事業総括報告会ポスター

平成23年度1学期の年度

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

文部科学省科学技術人材育成費補助金
「女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)」

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン 事業総括報告会

日時 平成23年12月20日(火) 14:30 ~ 16:30

会場 岡山大学創立五十周年記念館 2階会議室



■—プログラム—■

14:30- 開催の挨拶 森田 潔 学長

14:35- 活動成果報告 沖 陽子 ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室長

部門および WTT 業務推進室による報告

14:40- 環境整備・支援推進部門 五福 明夫 部門長

14:50- 広報・意識啓発推進部門 根岸 友恵 部門長

15:00- 次世代女性研究者育成推進部門 坂口 英 部門長

15:10- WTT業務推進室 富岡 憲治 室長

研究支援員事業利用者による報告

15:20- 三木 直子 大学院環境学研究科 准教授

WTT 教員研究紹介

15:30- 江口 律子 大学院自然科学研究科 助教

15:40- 宮崎 祐子 大学院環境学研究科 助教

パネルディスカッション

15:50- *コメンテーター 山本 洋子 資源植物科学研究所 教授

宇根山 健治 異分野融合先端科学研究コア 特任教授・コーディネーター

16:25- 閉会挨拶 許 南浩 ダイバーシティ推進本部長・理事・副学長



岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL&FAX: 086-251-7011 E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

平成 24 年度 男女共同参画室 新体制

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

継続

— 新たなる事業展開を目指して —



男女共同参画室 (H24.4.1~)



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

学長

ダイバーシティ推進本部長
理事 (企画・総務担当)

室長

副室長

専任室員 4
助教 (特契) 事務職員 (特契)
事務補佐員 (パート) 相談員 (パート) 各 1

兼任室員 14 教員 11
事務職員 3

事業推進部門

- ◆ ニュースレターの発行に関する事
- ◆ 交流サロン・シンポジウム・セミナーの企画・実施に関する事
- ◆ ホームページの運用に関する事
- ◆ その他男女共同参画推進に係る事業の実施・広報・意識啓発等に関する事

WTT事業部門

- ◆ WTT教員の選考・テニユア審査に関する事
- ◆ WTT教員の就業環境の整備に関する事
- ◆ WTT教員のメンターに関する事
- ◆ その他WTT教員制に関する事

男女共同参画推進 事業の実施

意識啓発・意識改革

「テニユアトラック
普及・定着事業」
の実施

「学都・岡大発
女性研究者が育つ
進化プラン」
の継続実施

持続型人材育成部門

- ◆ 持続型人材育成に関する事
- ◆ 教養教育科目の開講に関する事
- ◆ オープンキャンパスに関する事
- ◆ サイエンス・トークに関する事

ワークライフサポート部門

- ◆ 研究支援員事業に関する事
- ◆ 人材登録バンクに関する事
- ◆ メンター事業に関する事
- ◆ 女性サポート相談室の運営に関する事
- ◆ キャリアカフェの実施に関する事
- ◆ その他ワークライフサポートに関する事

女性サポート相談室